

～ 共感する～

symPaThy

Miyazaki Physical Therapy Association

VOL. 14

Contents

① 地域ケア会議



② 健康安全運転講座報告



③ 生涯学習委員会 研修レポート



「地域ケア会議」

～宮崎県理学療法士会の取り組み～

ブロック担当局：ブロック総括委員長 柚木 直也

【地域ケア会議の背景】

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。国は、「地域包括ケアシステム」の構築を実現する事によって、住まい・医療・介護・生活支援が一体的にできるまちづくりを実現し、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる姿を目指しています。厚生労働省の介護予防政策の中に、平成28年度から実施されている「介護予防活動普及展開事業」があります。中でも先行的に市町村で取り組まれてきた効果的な介護予防の仕組みが地域ケア会議です。この地域ケア会議は介護予防の観点から「自立支援」と「重度化予防」を目的に効果的な介護サービスを検討していく市町村の事業です。

【宮崎県理学療法士会の取り組み】

日本理学療法士協会は、地域の理学療法に対するニーズに応じていくために、「地域包括ケア推進リーダー」という認証コースを設け、地域ケア会議に関わることができる人材を育成しています。宮崎県理学療法士会も各ブロックで地域ケア会議に関わる会員の養成を行っている最中です。具体的には推進リーダー取得者向けに、地域ケア会議の情報交換会を開催しています。地域ケア会議の動向、他職種への理解や行政民間団体の支援サービス情報や紹介、地域における課題抽出など、個々の助言者としての能力向上に努めています。地域ケア会議協力会員の確保やリーダー取得者の役割についても検討しています。

【理学療法士に求められていること】

地域包括ケアシステム構築に向けて、「介護予防」と「地域ケア会議」への参画が求められています。介護予防教室では直接的なアプローチ、高齢者や認知症の方の通いの場や社会参加の場を創出していく地域へのアプローチも期待されています。一方、地域ケア会議では、医療と介護の施設に働く職種として必要とされており、我々が得意とする評価から予後予測、残存能力を引き出す方法等について助言し、介護予防ケアマネジメントが検討出来ると高く評価されています。

かつてのリハビリテーションの目標は、機能障害の回復にとどまっていた。ですが今は、「その人らしい暮らしの再構築と支援」が求められています。これからのリハビリテーションはこの地域包括ケアシステムの思考を持った他職種の方々と連携して、県民の暮らしを支えていかなければならない。

そのような考えが求められるようになってきています。



写真提供：都城市・日向市

「健康安全運転講座」報告

報告者：宮崎市郡ブロック北部部長 石川博隆



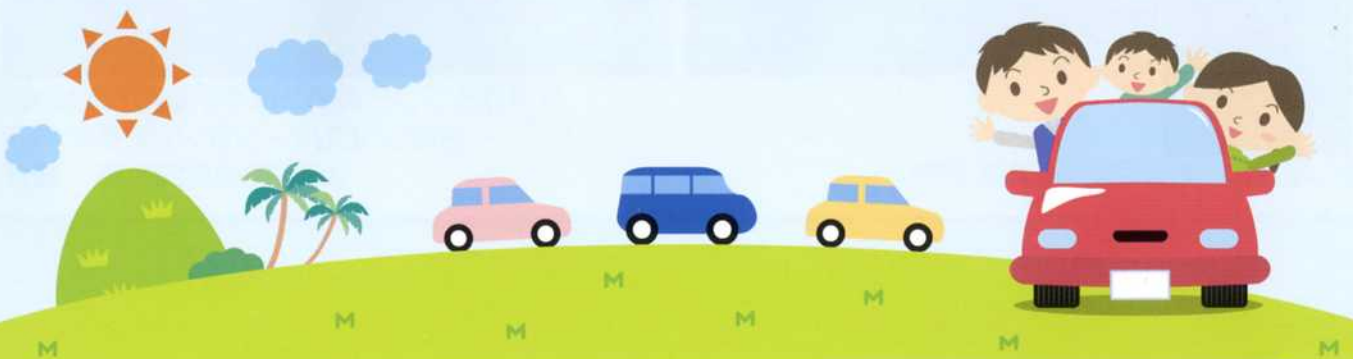
平成30年4月17日に宮崎ダイハツ株式会社南店にて、ダイハツ工業株式会社が各都道府県理学療法士協会と連携して展開する地域密着プロジェクト『健康安全運転講座』が開催され、当士会より3名の会員で参加して参りました。本事業は、健康づくりと安全運転(年齢)延伸、高齢者の運転事故予防につなげる安全な地域づくりを目的とした取り組みであり、産官学民が連携してサポートする活動の一環であります。

当日は、ダイハツスタッフ10名(内2名はダイハツ工業東京本社より)、当士会会員3名、JAF(日本自動車連盟)職員1名で実施しました。その他、宮崎市役所から視察、報道3社ほど来られていました。講座の参加者は、21名(男性15名、女性6名)で、年齢は67歳～88歳(平均77.8歳)でありました。

講座の内容としましては、【理学療法士による「体力測定・運動指導」】、【JAFによる「車の死角・正しい運転姿勢確認」】、【ダイハツ販売会社による「衝突回避・誤発進」体験】の3本立てであります。

まず、当士会会員で参加者の全員のバイタルチェックとセルフチェック(口コチェック)を行いました。その後、参加者の皆様を2グループに分け、1グループ約1時間で分けて講座を行いました。評価では、ダイハツスタッフの協力を得ながら握力、片脚立位、TUG(Timed Up & Go Test)、TMT-A(Trail Making Test)を測定し、全員が運動機能チェックを終えてからスライドにて運動機能チェックの結果説明、運転に関する身体的な説明と簡単な運動を実施しました。全体的に元気な方が多く、様々な説明などより運動を教えて欲しいという要望が出ていました。今回は初の事業ということもありモデルとなっている(一社)三重県理学療法士会のスライド等を引用させて頂きましたが、今後は参加者や多職種の方々の意見を傾聴し、宮崎県オリジナルの講座が展開できるよう柔軟に対応していければと考えております。

今回の事業参加での経験を活かし、今後も宮崎県理学療法士会における地域包括ケアシステム構築の為の一助を担えるよう、精進して参りたいと思います。また、このような地域貢献を目的とする事業に、県士会会員が一致団結して取り組むことが、今後地域支援事業の一柱として活動する私達に求められている一つの役割ではないかと感じました。



学術局 研修部 ～平成30年度 活動報告ならびに活動計画について～

研修部会は、日本理学療法士協会が定めている生涯学習システム(主に新人教育プログラム)の運営を主に行っています。基本姿勢への理解や資質の向上、理学療法の専門分野における職能的水準の引き上げ、自発的な学習の継続を理念としています。

平成30年度は、北部ブロック、都城ブロックを中心に合計6回の研修会を開催していく予定です。

学術局 研修部部长 田上 茂雄

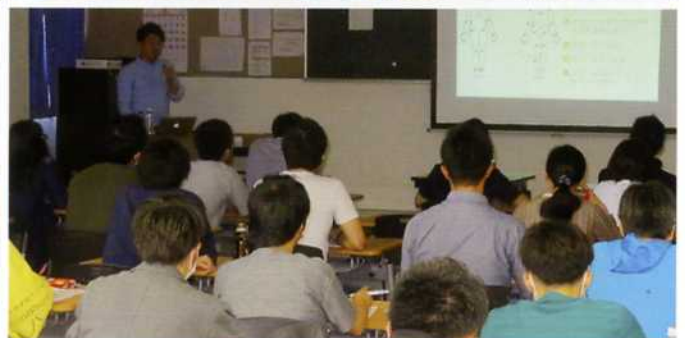
運動器研究部会 研修会報告

平成30年度第1回運動器研究部会の研修会では、平成30年5月20日(日)に宮崎リハビリテーション学院にて、「痛みのリハビリテーション～痛みに対する理学療法マネジメント～」をテーマに、甲南女子大学理学療法学科准教授の西上智彦先生、株式会社エマージェンスクエア910の内倉清等先生・福本周市先生の3名をお招きして開催致しました。

痛みを訴えている対象者に対して、痛みが発生するメカニズムを考慮した理学療法を展開するためのアセスメントとマネジメントについて学ぶことを目的として実施し、62名の参加を頂きました。

参加者からは、「自分の臨床を見直す機会になりました。新たな視点も増えたので、今日の研修会を生かして臨床に反映できたらと思います」、「治療に難渋する場面に認知的側面から介入や評価を行っていく具体的な手法を教えて頂き勉強になりました。もっと時間を長く取って頂きたいです」というご意見を頂きました。今後の研修会内容の参考にさせていただきます。

今後、ナイトセミナーや新人向けの症例検討会などの企画も考えておりますので、より多くの会員の方のご参加・ご意見をお待ちしております。



運動器研究部会
宮崎リハビリテーション学院 長友 典子
大江整形外科病院 郡 賢介

